

学校自己評価について

昨年度のアンケート結果を受けて、質問項目を若干変更いたしました。各学部の「指導の一貫性」に関する1つの質問項目を2つに分け、以前は、質問（7）であったものを質問（7）と質問（8）に分けて尋ねるように変更いたしました。そのため、質問数が14問から15問に増えています。これは、教職員へのアンケートに関しても、同じような目的で変更をしております。

作成したグラフは、保護者の方々に回答していただいた「そう思う」「だいたいそう思う」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」及び「わからない（無記入を含む）」の5分類とし、総数を100%としての割合をまとめています。グラフを分析する場合は、「そう思う」「だいたいそう思う」をプラス評価、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」をマイナス評価とし、その区切りを中心に見ていくようにしました。

保護者の集計結果より

昨年と比較してみますと、多くの質問項目では、プラス評価とマイナス評価の区切りは、ほぼ同じようになっています。しかし、質問（1）では、マイナス評価が増えています。昨年度の質問（7）は、マイナス評価が多かったのですが、今年度の質問（7）と質問（8）は、プラス評価が増えています。質問（12）は、同じような結果となりました。

これらのことから、質問（1）に関して、「目指す子ども像」については、今後も継続して学校からの情報を発信していく必要があることが分かります。今年度は、参観日、学部懇談会も少なく、保護者の方々としっかり話をしていく機会が設定できなかったように思います。

質問（7）、質問（8）は、どちらもプラス評価が80%を越えています。一貫性に関わる質問として、私たち教師自身が、児童生徒の指導において、今までの指導の経緯を踏まえ、将来を見通した継続的な関わりをしていく大切さについて、保護者の方々に伝わっていると感じています。今後もさらに、努力していきたいと思えます。

質問（13）は、地域資源の活用に関する質問ですが、今年度は、新型コロナウイルス感染症のために、活用が難しい状況が続いています。今後の感染症の状況に応じて、対応したいと思えます。

教職員の集計結果より

教職員のアンケート集計からは、質問（8）及び質問（13）に関するマイナス評価が増えています。特に質問（8）に関しては、マイナス評価の方がプラス評価より高くなっています。各教員が日常的に相互に情報交換をしようとする姿勢や機会の不足、実際の時間的余裕がない状況が伺えます。

本校の学校力、教育力を向上していくためには、教職員のチームとしての連携協力、専門性の向上のための研修が不可欠です。今後、教員への啓発を含めて、さらにしっかり取り組んでいく必要があると感じています。なお、質問（13）は、昨年度よりもマイナス評価が増えています。教職員にとっても、保護者の方々と同様、今年度の新型コロナウイルス感染症対応のために活動が制限された影響を感じているものだと判断しています。